

4th Circular

2020 年 11 月 10 日



第 23 回総合学術研究集会 in 東京

人間の尊厳と平和で持続可能な社会を求めて
—科学者と市民の共同を探求する—

オンライン開催 2020年12月4日(金)～ 6日(日)

12 月第 1 週は、皆さん誘い合わせて 23 総学へ

—焦眉の現代的課題に迫る 23 総学に参加して、科学と運動を論じよう—

12 月 4 日から始まる 23 総学がいよいよ目前に迫りました。JSA にとって 23 総学は今年度最大の研究企画です。私たち実行委員会はこの 4th サーキュラーで 23 総学のプログラムを公表し、市民を含む広範な人々に参加を呼びかけます。

メインテーマは「人間の尊厳と平和で持続可能な社会を求めて」で、「科学者と市民の共同を探求する」という副題をつけています。資本主義先進諸国の新自由主義政策が増幅した社会矛盾にコロナ禍が追い打ちをかけ、市民が困難に喘いでいる時期に今回の総学は開催されます。上記テーマにはそうした困難の解決に科学の成果を生かし、市民とともに解決の方向を考えようという思いが込められています。

主な企画としては、まずジェンダー平等と気候変動問題を扱う 2 つの特別報告。25 の分科会は多彩なテーマに分かれ 126 名の科学者、技術者、学生、市民などが発表します。文化企画としては平和とジェンダーのレクチャーコンサートを行います。日本学術会議の任命拒否問題での討論集会には当事者も出席予定です。

JSA の総学の魅力は、①科学の到達点として最新の知見を得られる、②JSA の支部や地区の研究企画と比べてもテーマの幅が広い、③普段は聞けない人の発表を聞ける、④市民を含む多様な階層の人たちと交流できる、などにあります。

今回はコロナ禍のため、やむを得ずオンラインで開催しますが、参加費無料、交通・宿泊費不要、時間が節約でき、自宅から気軽に参加できるなどの利点もあります。オンラインは初めてという人でも操作は意外と簡単ですし、実行委員会がサポートします。会員はもちろん、非会員の研究者や一般市民の方も歓迎します。皆さんお誘いあわせの上、ご参加下さい。

23 総学実行委員会事務局長 佐久間英俊（東京支部事務局長）

23 総学への参加のご案内

○参加申し込みは、11月はじめから JSA ウェブページ (<http://www.jsa.gr.jp/>) でご案内します。JSA ウェブページから 23 総学のページにすすみ、ウェブフォームに記入して参加登録をしていただきます。登録いただいた方に、オンライン参加の案内（Zoom 接続情報等）を後日お送りします。

○分科会、特別報告、文化企画への Zoom 接続情報は 1 週間前をメドにメールにてお送りします。予稿集（オンライン版）も 11 月末日にダウンロード可能とする予定です。

○分科会設置責任者には、運営の手順説明と予行演習の機会の案内を別途お送りします。

○参加費は無料ですが、開催のためにはサーキュラー発行、Zoom 契約、運営アルバイト等のための経費を要しており、寄附（一口 1000 円）にご協力いただけると幸いです（目標総額 15 万円）。寄附の振込先：郵便振替 日本科学者会議東京支部 00160-9-86898

○総学終了後に、予稿集（冊子版）を作成し、1 冊 2000 円（予定）にて頒布します。ご希望の方は参加登録の際にお申し込みください（上記ウェブフォームに申し込み欄があります）。

23総学・企画の日程

2020年 12月	午前 (9:30～ 12:00)	午後Ⅰ (12:50～15:20)	午後Ⅱ (15:30～18:00)	夜間 (19:00～21:30)	
1日(火)			分科会 op1	分科会 op2	分科会 予備日
2日(水)			分科会 op3	分科会 op4	
3日(木)			分科会 op5	分科会 op6	
4日(金)		分科会 1	開会式 (15:30～15:50) 特別報告Ⅰ (16:00～17:30) 特別報告Ⅱ (18:00～19:30)		集中 開催 期間
5日(土)	分科会2	分科会3	分科会4 (15:40～18:10)	文化企画 (19:00～20:30)	
6日(日)	分科会5	緊急集会 「学術会議会員 任命拒否問題」 (12:50～15:00)	分科会交流会 (15:30～17:30) ・ 閉会式 (17:30～17:40)		

特別報告 12 月 4 日(金)開催

1. 16:00~17:30

貧困・格差社会を切り拓くジェンダー平等

竹信三恵子(ジャーナリスト、和光大学名誉教授)

＜特別報告者紹介＞ ジャーナリスト・和光大学名誉教授。NPO官製ワーキングプア研究会理事。2009 年貧困ジャーナリズム大賞受賞。2009 年『ルポ雇用劣化不況』で労働ペンクラブ賞受賞。その他の著書:『ルポ賃金差別』ちくま新書(2012)、『家事労働ハラスメント』岩波新書(2013)、『正社員消滅』朝日新書(2017 年)、『企業ファースト化する日本 虚妄の「働き方改革」を問う』岩波書店(2019)他。

2. 18:00~19:30

人為起源温室効果ガスによる地球温暖化現象と気候変動の問題について

中島映至(国立環境研究所衛星観測センター シニアアドバイザー・東京大学名誉教授)

本講演では、人為起源の温室効果ガスの増加による地球温暖化現象と気候変動に関する科学的理解の現状と課題について俯瞰する。現象の把握には地球観測システムの構築も必要である。また、COP21 パリ協定やわが国の気候変動適応法の施行に伴って対策が進む現状において、科学的知見をどのように利用するかも重要な課題であるので、これらの点についても言及したい。

文化企画 12 月 5 日(土) 19:00~20:30

平和とジェンダーのレクチャー・コンサート

小林 緑(国立音楽大学名誉教授/フランス音楽史・女性作曲家研究)

昨年の東京支部主催「平和のためのサロン・コンサート〜調和の響きを織りなす女性たち」に続く企画。クラシックの女性作曲家は、いまだブラックホールに閉ざされたままだが、男女平等を実践し、参政権運動に参画した女性たちも実在した。今回は女性解放の先進地域北欧で復権著しい 19 世紀生まれの 3 人、エルフリーダ・アンドレエ、アガーテ・バッケル＝グレンダール、アマンダ・マイエルのピアノ曲を中心に、CD と図像・動画を活用してご紹介したい。

緊急集会 12 月 6 日(日) 12:50~15:00

政府の日本学術会議会員の任命拒否は、憲法に謳われた学問の自由を侵し、民主主義を踏みにじる重大問題です。拒否理由のまともな説明もない恣意的な実態が日々明らかとなり、これは自由な議論への圧力であり、不要な忖度や萎縮を引き起こすもので、学者・研究者だけの問題ではなく、最終的には国民の利益をそこなうものだとは各界から強い抗議がおこっています。23 総学では、不当な任命拒否を受けた当事者にも参加いただき、この問題の本質を深め、各分野での取り組みについても交流したいと思います。

23総学・分科会開催日程

分科会 番号	分科会テーマ名 (一部略記)	発表 件数	12月2日・水		12月3日・木		12月 4日	12月5日・土			12月 6日
			op3	op4	op5	op6	分1	分2	分3	分4	分5
			午後Ⅱ	夜間	午後Ⅱ	夜間	午後Ⅰ	午前	午後Ⅰ	午後Ⅱ	午前
			15:30- 18:00	19:00- 21:00	15:30- 18:00	19:00- 21:00	12:50- 15:20	09:30- 12:00	12:50- 15:20	15:40- 18:10	09:30- 12:00
A1	コロナパンデミックと日本社会	5									
A2	コロナ禍における学生の学び	3									
A3	コロナ禍を乗り越えるために国公立試験研究機関・保健所・病院は	4									
B1	新型コロナ禍における女性研究者・技術者の困難と課題	4									
C1	新型コロナウイルス危機と日本国憲法	6									
C2	平和問題分科会	10									
C3	韓国FW報告会	3									
D1	気候危機に立ち向かうー自然エネルギーと省エネ社会の実現に向け	5									
D2	南海トラフ巨大地震への備え	6									
D3	脱原発・最終処分課題	8									
D4	公害・環境問題の現在	7									
E1	日本の農と食を考える	4									
E2	ポストコロナ&アメリカ大統領選挙後の資本主義経済——世界と日	4									
F1	自然科学の進展を俯瞰する	3									
F2	第8回複雑系科学シンポジウム——複雑系科学と2020年代の世界	5									
F3	リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part4)	11									
F4	科学技術の現状批判——part12——	7									
F5	科学・技術サロン——part13——	7									
G1	高等教育の危機に抗するために	3									
G2	民主的市民性教育のために	4									
G3	企業としての大学・研究機関	4									
G4	いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える	6									
G5	市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望	1									
H1	文学は、疫病・大感染をどう描いてきたか	2									
H2	優生思想の過去・現在・未来	4									
	累 計	126	1		1	1	5	6	6	6	4

分科会プログラム

A コロナ禍を乗り越え、よりよい社会へ



【A1】分科会：コロナパンデミックと日本社会

設置責任者：宗川吉汪（京都支部）

設置趣旨：新型コロナウイルスの世界的流行（コロナパンデミック）に遭遇して、日本の社会的基盤の脆弱性が露呈した。安倍政権の右往左往ぶりは目に余るものがあった。ウイルス感染に対する公衆衛生・医療体制の不備ならびに社会的リテラシーの低さが、社会の基盤である経済・教育・福祉・防災をはじめ社会生活のあらゆる面に大混乱をもたらした。本分科会では、ウイルスの大流行に立ち向かうことのできる日本社会をどのように構築するか、討論したい。

12月5日（土）09:30～15:20

09:30～09:40 宗川吉汪 はじめに

09:40～10:15 ①宗川吉汪（生命生物人間研究事務所、京都支部）：コロナパンデミック傾向と対策

10:15～10:50 ②吉田賢右（生命誌研究館、京都支部）：感染防御でわかってきたこと

10:50～11:25 ③前田耕治（京都工芸繊維大学、京都支部）：コロナ禍が大学にもたらしたもの

11:25～12:00 ④近藤真理子（太成学院大学、大阪支部）：コロナ禍における教員養成系講義のとりくみ

12:00～12:50 <休 憩>

12:50～13:25 ⑤米田貢（中央大学、東京支部）：コロナ禍の克服を転機に新自由主義の政治の一掃を

13:25～14:00 ⑥大西広（慶應義塾大学、東京支部）：危機に現れる資本主義国家の根本的弱点

14:00～14:35 ⑦渡邊賢治（渡邊医院、京都支部）：新型コロナウイルス感染拡大で、見直さねばならぬ医療政策

14:35～15:20 ⑧総合討論

【A2】分科会：コロナ禍における学生の学び—ポストコロナを展望して—

設置責任者：細川 孝（京都支部）

設置趣旨：新型コロナウイルスの感染拡大によって、日本の高等教育の問題点が可視化された。それは高学費と不十分な奨学金制度、アルバイトに依存せざるを得ない学生生活などである。このようなもとで当事者である学生たちが立ち上がり学費負担の軽減や給付を求める運動に取り組み、社会的な支持も得て一定の成果を勝ち取った。このような動きをポストコロナにおける大学創造にどうつ

なげていくのか、学生や大学院生の参加も得て議論する。

12月6日 09:30～12:00

座長: 細川 孝(京都支部)

09:30～09:35 座長あいさつ

09:35～10:10(1) 渡部 昭男(中等教育及び高等教育の漸進的無償化立法を求める会 事務局長
／元神戸大学):国際人権A規約(社会権規約)を国内法化した漸進的無償化立法の提案

10:10～10:45(2) 小島あずみ、寺田有佑、松尾菜生(FREE京都):コロナ禍における学生の実態

10:45～10:55 <休憩>

10:55～11:30(3) 東京医ゼミに行く会:女子医大の件から考える医学部高額学費問題

11:30～11:55 総合討論

11:55～12:00 座長まとめ

【A3】分科会:コロナ禍を乗り越えるために国公立試験研究機関・保健所・病院はどうあるべきか

設置責任者: 小滝豊美(国公立試験研究機関問題委員会／茨城支部)

設置趣旨:これまで多くの行政機関において新自由主義的な「改革」が強力に推進されてきた。その筆頭は国公立研究機関や博物館等の独立行政法人・地方独立行政法人化や国公立大学の法人化である。このような「改革」は、すでにこれらの行政機関に大きなダメージを与えてきたが、今般のCOVID-19の拡大の中で、そうした改革の弊害により国民の生命や社会経済活動が脅かされていることが誰の目にも明らかになった。新自由主義的な改革の流れを押しとどめることは必須であるが、ではその先、コロナ禍を乗り越え、国民の負託に応えるため行政機関はどのような方向を目指すべきなのか。感染症対策や公衆衛生の要である研究所、保健所および、この状況下で独立行政法人化への準備が強引に進められている都立病院・公社病院の現状からあるべきすがたを考える。

12月5日 12時50分～15時20分

12:50 開会

12:50～13:00 分科会趣旨説明 小滝豊美:(JSA 茨城支部／国公研委員会)

13:00～13:30 (1) 大門晋平(国公労連中央執行委員):国立感染症研究所の現状と課題

13:30～14:00 (2) 横山敏郎(元東京都健康安全研究センター研究員、都立病院の充実を求める
連絡会事務局):試験研究機関と病院の地方独法化一現状と今後の課題

14:00～14:30 (3) 高橋貴志子(元東京都保健師、岩手県社会保障推進協議会事務局次長):
憲法25条に基づく公衆衛生、保健所機能の拡充強化を

14:30～15:00 (4) 安達智則(都留文科大学講師、東京自治問題研究所主任研究員):保健所の財政問題－国庫負担の実現を求めて

15:00～15:20 総合討論

15:20 閉会

B 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重



【B1】分科会名：新型コロナ禍における女性研究者・技術者の困難と課題

設置責任者：中島明子（東京支部）

設置趣旨：新型コロナ禍の感染拡大に伴い、研究・教育環境は激変し、とりわけ若手研究者や不安定な職にある人々の研究・教育の困難は大きく、正規の職にあっても、リモート授業の負担、実験・実習ができない、調査や海外渡航の中止で研究遂行が難しくなっています。同時に子育て期の女性は、保育園の休園や休校等により二重三重の負担を抱えています。本分科会では何人かから話題提供をした後、全国からの参加者と交流し、コロナ禍から見えてきた女性研究者・技術者の研究・教育改善を探りたいと思います。

12月5日 15:40～18:10

座長：峰尾菜生子/小尾晴美

15:40～15:45 座長あいさつ

15:45～16:00 JSA 第15回女性研究者・技術者全国シンポジウム及び男女共同学協会調査報告
笹倉万里子(女性研究者・技術者委員会委員長、岡山大学)

16:00～16:15(1)衣川清子(法政大学等非常勤講師、大学等教職員組合委員長):コロナ禍のもとの非正規教員の現状

16:15～16:30(2)長谷川千春(立命館大学): 臨時休校・登園自粛下における家事育児負担と大学業務の加重化

16:30～16:45(3)杉田真衣(東京都立大学): コロナ禍における大学の状況—教員の立場から

16:45～17:00(4)中島雅登(東京支部・個人会員): ダブルマイノリティの在野研究者の困難とコロナ禍

17:00～17:10 <休憩>

17:10～18:00 参加者からの感想・報告・提言など

18:00～18:10 まとめ 中島明子(分科会設置責任者・和洋女子大学名誉教授)

C 平和な時代を拓く



【C1】分科会名：新型コロナウイルス危機と日本国憲法—危機便乗改憲を許さないために—

設置責任者：金子勝（東京支部立正大学分会）、中野貞彦（東京支部武蔵野通研分会）

設置趣旨：新型コロナウイルス感染症の世界的大流行（パンデミック）は、世界各国において、その国民の生命・健康・生活と経済活動の破壊をもたらしているだけでなく、自国社会の病理をもあぶり出し、「ポストコロナ社会」のあり方を、人類に問いかけている。

日本では、新型コロナウイルス危機の対処に当って、安倍内閣と自由民主党が、日本国憲法を用いて国民の生命・健康・生活や文化をまもる政治を行うことよりも、日本国憲法の中に「緊急事態条項」を取り入れる布石を打つこと(改憲)、経済活動を復活させることを最優先する政治を行い、日本社会の病理(貧困・差別・不平等・公共の貧弱など)を露呈させている。

改憲を許さないために、日本国憲法に基づく新型コロナウイルス禍等の異常自然災害の対処措置のあり方や「ポストコロナ社会」のあり方を、みなさんと検討したいと考えている。

12月5日 15:40~18:10

座長: 中野貞彦(東京支部武蔵野通研分会)

15:40~15:45 開会あいさつ 金子勝(立正大学分会)

15:45~16:05(1) 中野貞彦(東京支部武蔵野通研分会): 幣原喜重郎の平和思想—根底に原子爆弾への正確な認識—

16:05~16:25(2) 榊原 精(おかやまいっぽん共同代表、JSA 岡山支部事務局次長): 市民と科学者と政党の共同を模索して——岡山からの報告

16:25~16:45(3) 二橋元長(埼玉県平和委員会代表理事): コロナ禍のもとでの、学習・宣伝・対話の工夫

16:45~16:55 <休憩>

16:55~17:15(4) 木下ちがや(明治学院大学国際平和研究所): 新型コロナ下における緊急事態宣言にみる

17:15~17:35(5) 植野妙実子(中央大学名誉教授): コロナ禍における立憲主義の危機

17:35~17:55(6) 金子 勝(立正大学分会): 「平和的福祉国家」の構想

17:55~18:10 <全体討論>

【C2】分科会名: 平和問題分科会

設置責任者: 亀山統一(沖縄支部・JSA 平和問題研究委員会)

設置趣旨: 日米同盟の現状と自衛隊・在日米軍の再編強化、中国・香港・朝鮮半島・南シナ海・ロシアなどでいずれも大きな変化を見せる東アジア情勢、核兵器禁止・廃絶とそれへの逆行、ミサイル防衛と敵基地攻撃論、基地被害・環境問題、緊急事態条項など新たな装いの改憲論、新型コロナウイルス感染症の流行下での軍事活動や平和運動の変化、持続可能な社会像、補償問題、軍学共同・科学技術研究の軍事化など論じるべきことは枚挙に暇がない。本分科会は、コロナ禍の中で「コロナ後にいかなる社会を構築するか」を人びとが意識せずにいられない中で、持続可能な社会構築の骨格となる平和の問題を、多様な角度から論じる場としたい。

12月5日 09:30~12:00

セッションA 核兵器と日米安保体制のいま

座長: 亀山統一(・前田定孝)(JSA 平和問題研究委員会)

09:30~09:45(1) 亀山統一(琉球大学): 「敵基地攻撃能力」をもつ自衛隊と日米同盟の現段階

09:45~10:15(2) 富塚明(長崎大学環境科学部): 米国の核兵器近代化と新型核弾頭 W93

10:15～10:45(3) 岩田裕(高知支部): ビキニ核被災者救済の支援活動と核兵器禁止条約発効の意義

10:45～10:55 休憩

10:55～11:25(4) 増山博行(山口支部): 計画中止に追い込まれたイージス・アショアと山口県の地元のたたかい

11:25～11:55(5) 梶原渉(一橋大学大学院): 日米安保 60 年と学問研究

11:55～12:00 セッションのまとめ

12月5日 12:50～15:20

セッションB 沖縄の新基地建設に立ちはだかる科学者、自治体、市民

座長: 亀山統一・前田定孝(JSA 平和問題研究委員会)

12:50～12:55 座長あいさつ

12:55～13:30(1) 立石雅昭(新潟支部)・沖縄辺野古調査団: 沖縄辺野古埋立計画の非科学性

13:30～14:05(2) 徳田博人(琉球大学): 辺野古新基地反対運動・裁判が問う国家と法のあり方

14:05～14:35(3) 前田定孝(三重大学人文学部): 『沖縄の自治』という「神話」、『法治国家』という「神話」

14:35～15:05(4) 杉浦公昭(元東洋大学工学部): 米軍新基地建設反対の「オール沖縄」の闘いに学んで

14:05～15:20(5) 亀山統一(琉球大学): 沖縄の新たな新基地問題「浦添新軍港」

【C3】分科会名: 韓国 FW 報告会

設置責任者: 吉村さくら(東京支部)

設置趣旨: 多くのご支援のもと、去る2020年2月25～27日にかけてJSA 院生・若手企画大型フィールドワーク in 韓国・ソウル「今、『韓日』関係を考える—現地学習・対話から科学者の役割を考えよう—」を開催した。本分科会では、韓国FWの成果報告とFW後に問題意識を共有したメンバーで立ち上げた日韓研究会の研究報告を行う。

12月4日 12:50～15:20

座長: 吉村さくら(中大院生分会)

12:50～12:55 座長あいさつ

12:55～13:20(1) 全体: 韓国FW 概要報告

13:20～13:45(2) 梅垣 緑(一橋大学): 大学院生による労働組合運動: 韓国の事例を中心に

13:45～14:10(3) 峰尾菜生子(東京支部): 韓国における「親日派」とは

14:10～14:20 <休憩>

14:20～14:45(4) 吉村さくら(中大院生分会): ソウル市における女性「ホームレス」への社会的支援

14:45～15:20 座長まとめ

D 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興

【D1】分科会名: 気候危機に立ち向かう—自然エネルギーと省エネ社会の実現に向けて

設置責任者：河野 仁（大阪支部/ 中長期気候目標研究委員会 JSA-AC 代表）

設置趣旨：パリ協定の目標とする気温上昇量 1.5℃未満を達成するためには、温室効果ガスの排出量を 2030 年には現在の約半分に減らし、2050 年にはゼロにする必要がある。本分科会での研究発表対象分野は次の通りである。

- ・省エネと自然エネルギーの普及のための技術、社会制度、税制度、環境政策分野の研究
- ・日本の気候変動とその影響に関する研究
- ・気候変動による集中豪雨災害、異常気象とその対策研究
- ・その他関連する研究

12 月 5 日 14 : 00~18 : 00

座 長：河野 仁（大阪支部/ 中長期気候目標研究委員会 JSA-AC 代表）

14:00~14:05 座長あいさつ

14:05~14:30 (1) 河野 仁(元、兵庫県立大学)：日本の異常気象と気候変動

14:30~14:55 (2) 後藤隆雄・松下まり子(元神戸大学)：縄文時代海進で見える地球温暖化の検討

14:55~15:20 (3) 歌川学(産総研) 気温上昇 1.5℃にむけた地域の削減対策

15:20~15:35 休 憩

15:35~16:00 (4) 佐川清隆（名古屋大学）：複雑化する電力市場は脱炭素化に寄与するか？

16:00~16:25 (5) 草野 清信(宮城支部)：持続可能な社会の建設— 水素社会 CO2 フリー社会
脱原発社会 洋上太陽光発電基地—

16:25~16:50 (6) 冨塚 明(長崎大学環境科学部)：九州電力管内における太陽光／風力発電の
抑制の現状と課題

16:50~17:15 (7) 河野 仁(元、兵庫県立大学)：メガソーラーの山林・山間への設置と自然保護

17:15~17:40 (8) Kenji Stefan Suzuki(SRA Denmark, 「風のがっこう」主宰)：デンマークにおける
廃熱の地域温水供給システムについて

17:40~18:00 全体討論

【D2】分科会名：南海トラフ巨大地震への備え

設置責任者：中山俊雄(東京支部)、綱島不二雄(宮城支部)

設置趣旨：今後 30 年間に 70-80%の確率で起こるとされる南海トラフ地震、想定される被害は、関東・東海・関西・四国・九州にかけて、都市・農村を問わず、多大な地域社会基盤の崩壊が生じ、東日本大震災を凌ぐ大災害となることが危惧されています。

JSA は、これまでに「東京の地震を考える」(1972)「東京都の地震対策への提言」(三次)「南海トラフの巨大地震にどう備えるか」を刊行、また地震学論争、原子力発電と地震、都市防災、阪神・淡路、東日本大震災、熊本地震、等に関して多様な知見を積み重ねてきました。その蓄積の上に、「南海トラフ巨大地震への備え」を意識した提言作成に向けて、その準備作業ともなるシンポジウムを開催するものです。若手研究者をはじめ多くの会員のご参加を期待します。

12 月 5 日 09 : 30~12 : 00

座 長： 網島不二雄(宮城支部)、中山俊雄(東京支部)、

09:30～09:35 座長あいさつ・問題提起「南海トラフ巨大地震にどう向き合うか」

09:35～09:55(1)奥西一夫(京都支部:国土研):災害科学の理念を踏まえた長期、中期、短期
の防災計画

09:55～10:15(2)志岐常正(京都支部):ガイア、災害列島に生きる人間の危機の諸問題—南海
地震・津波災害問題を中心に—

10:15～10:25 <休 憩>

10:25～10:45(3)岩田孝仁(静岡大防災総合センター):減災から防災社会への構築へ

10:45～11:05(4)宮入興一(愛知支部・愛知大學名誉教授):南海トラフ巨大地震への備えは
—財政論を中心に—

11:05～11:25(5)津久井進(弁護士):災害ケースマネジメントから事前復興を

11:25～11:45(6)網島不二雄(元山形大:地震津波震災復興研):人間の復興をめざす
事前復興—東日本大震災からの教訓をふまえて

11:45～12:00 全体討論・座長まとめ

【D3】分科会名：脱原発・最終処分の課題

設置責任者：岩井 孝（茨城支部、原子力問題研究委員会）

設置趣旨：新規制基準に適合した原発の再稼働が進められ、六ヶ所再処理工場についても事実上の「合格」が出された。新規制基準に適合しても重大事故の発生が防止できないのであるから、原発再稼働も核燃料サイクルもやめるべきである。事故を起こした福島第一原発の廃炉作業は困難を極め、見通しが立たない。事故を起こしていない原発の廃炉も、放射性廃棄物や使用済燃料の処分の目処がない。脱原発・最終処分の課題を中心とした議論により、道筋を見出したい。

12月5日 9:30～12:00

座 長：岩井 孝(茨城支部 原子力問題研究委員会委員長)

09:30～09:35 座長あいさつ

09:35～09:55(1)富田道男(京都支部): 日米原子力協定と脱原発への道

09:55～10:10(2)草野清信(宮城支部): 福島県南相馬市での放射性廃棄物焼却処分の実態

10:10～10:30(3)草野清信(宮城支部): アメダス気象観測データを用いて原発事故に伴う放射
能汚染地帯の予測は可能か

10:30～10:35 <休 憩>

10:35～10:55(4)小林昭三(新潟支部): 3.11 福島 10 年と「新潟での原発事故の3検証」

10:55～11:15(5)花島進(茨城支部): 原発問題を総合的な視点で考える

11:15～11:35(6)山本富士夫(福井支部): 原発安全神話崩壊のための科学的世論形成

11:35～11:55(7)岩井孝(茨城支部): 破たんした核燃料サイクルは即刻やめるべき

(予稿のみ) (8)山本雅彦(福井支部) 若狭の老朽原発の危険性

11:55～12:00 座長まとめ

【D4】分科会名:公害・環境問題の現在**設置責任者:** 畑 明郎 (滋賀支部)**設置趣旨:** 本分科会は、各報告を通じて、国内外の公害・環境問題についての、自然科学的・社会的な現状報告を行うことで、今後、日本科学者会議として取り組むべき課題を提示することを目的に設置する。各地域での公害・環境問題の現状と課題を討論する。**12月4日 12:50～15:20****座 長:** 畑 明郎 (滋賀支部)

12:50～12:55 座長あいさつ

12:55～13:15 (1) 木下紀正 (鹿児島支部): 演題 1「銅山硫煙被害の拡がりを見直す」

13:15～13:35 (2) 畑 明郎 (滋賀支部): 演題 2「日本の建設残土問題を考える」

13:35～13:55 (3) 中川武夫 (愛知支部): 演題 3「アセスメントの到達点 名古屋アセス事業を
国アセス事業と比較して」

13:55～14:15 (4) 小林芳正 (京都支部): 演題 4「低周波音被害をなくすために(2)」

14:15～14:35 (5) 山田大邦 (北海道支部): 演題 5「都市低周波音問題－隣家のヒートポンプ音に
よる健康被害－」

14:35～14:55 (6) 佐々木邦夫 (北海道支部): 演題 6「小型風力発電の騒音による健康被害」

15:55～15:15 (7) 加藤やすこ (北海道支部): 演題 7「風力発電施設から発生する電磁波の影響と
環境アセスの必要性」

15:15～15:20 閉会あいさつ

E 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生**【E1】分科会名:日本の農と食を考える****設置責任者:** 西村一郎 (東京支部)**設置趣旨:** 日本の農と食が資本の論理で一面的にゆがめられつつある中、種子法廃止やコロナなどによってさらに悪化することが予想されます。低い食糧自給率や高齢化する生産者など現状の問題点を共有化し、国民の立場でのあるべき農と食のこれからについて多方面から考えます。**12月5日 09:30～12:00****座 長:** 西村一郎 (東京支部)

09:30～09:35 座長あいさつ

09:35～10:00 (1) 立石昌義 (埼玉支部所属、埼玉農民連会長): 感染症と食料・農業

10:00～10:25 (2) 小川静治 (東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター事務局長): 被災
地宮城における第一次産業の復興の現状と課題 part II

10:25～10:50(3)原英二(日本消費者連盟):食をめぐる消費者行政の今——食品表示を例として

10:50～11:00 <休憩>

11:00～11:25(4)西村一郎(東京支部):近郊農業の在り方を考える 船橋農産物供給センターの調査から

11:25～12:00 全体討論

【E2】分科会名:ポストコロナ&アメリカ大統領選挙後の資本主義経済 —世界と日本はどうか？

設置責任者: 本田浩邦(獨協大学)

設置趣旨: コロナ危機は経済の大幅な落ち込みをもたらし、人々の労働、消費、教育など生活パターンを変え、資本主義のあり方を大きく変容させつつある。さらに11月のアメリカ大統領選挙の結果は、アメリカのみならず世界経済の今後の動向を大きく左右するであろう。

この分科会では、世界と日本の経済状況を考察し、これからの資本主義がどうなるか、どうすべきかを考える。4人の経済の専門家によるポストコロナとグローバリゼーションとアメリカ経済の現状、経済政策の報告を踏まえ徹底的に討論する。

12月6日 9:30～12:00

座長: 本田浩邦(獨協大学)

09:30～09:35 座長あいさつ

09:35～10:00(1)本田浩邦(獨協大学): 演題1「アメリカ大統領選挙の結果をめぐって」

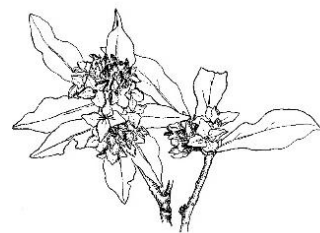
10:00～10:30(2)小林哲也(獨協大学): 演題2「米中経済摩擦」の背景——5Gを巡るハイテク覇権と半導体産業のエコ・システム」

10:30～11:00(3)平野健(中央大学): 演題3「アメリカのグローバル蓄積体制と中国」

11:00～11:30(4)増田正人(法政大学): 演題4「新型コロナ禍の拡大とグローバル経済」

11:30～12:00 全体討論・座長まとめ

F 科学・技術の現状批判と課題



【F1】分科会名:自然科学の進展を俯瞰する

設置責任者: 青木和光(東京支部)

設置趣旨: 自然科学の各分野で著しい進展がある一方、専門化が進んでいるため、科学者の間で必ずしもそれを共有しにくい状況があるのではないのでしょうか。各分野の専門家が集まる日本科学者会議の特色をいかし、ここ30年程度における進展を研究者個人の視点でみつめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。分科会では、3人程度から「教科書が書き換えられた」「ある技術が研究を一変させた」といった事例の報告を受けたうえで、参加者にも各分野の状況を発言いただきます。

12月6日 9:30～11:50

座 長：青木和光(東京支部)

09:30～09:40 座長あいさつ

09:40～10:15(1)今井 裕(鹿児島支部)：電波干渉計の発展に見る科学と国際交流の進展

10:15～10:50(2)久米鏡花(広島支部) ゲノム編集時代の生命科学

10:50～10:55 <休 憩>

10:55～11:30(3)浜田盛久(神奈川支部)メルト包有物の研究から見てきた噴火前マグマ
プロセス

11:30～11:50 議論

【F2】分科会名：第8回複雑系科学シンポジウム—複雑系科学と2020年代の世界観

設置責任者：栗野 宏 (JSA 山形支部)

設置趣旨：複雑系科学シンポジウムとしては事実上初回となった「複雑系科学と現代唯物論」分科会が18総学で開催されてから、今年で10年がたちます。いま私たち人類は、新型コロナウイルス感染症という重大な挑戦状を突きつけられているのをはじめ、過酷さを増す自然災害や気候変動、世界的規模で進む貧富の格差拡大や覇権主義・排外主義の強まりなど、困難な課題に直面しています。本分科会では、2020年代を迎えた現時点におけるこれらの諸課題を念頭におき、複雑系科学の視点からとりくまれた多岐にわたる研究発表を募集します。

12月4日 12:50～15:20

座 長：栗野 宏 (JSA 山形支部)

12:50～13:05(1)栗野 宏 (JSA 山形支部)：第8回複雑系科学シンポジウムへの序論 —複雑系科学の30年

13:05～13:30(2)志岐常正 (JSA 京都支部)：改めて、地球ガイア構成階層の多様性、複雑性を考える —とくに、災害に関する調査・研究の盲点と想定外事態の発生問題を中心に

13:30～13:55(3)白井浩子 (JSA 岡山支部)：新進化論と資本論の共通点

13:55～14:20(4)嶋田一郎 (JSA 宮城支部)：参議院選挙比例区における政党の選挙活動の定量的解析と評価の試み —野党共闘の効果を探る

14:20～14:45(5)栗野 宏 (JSA 山形支部)：自然弁証法の弁証法 —複雑系としての自然弁証法

14:45～15:20 全体討論

【F3】分科会名：リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流 (part4)

設置責任者：長田好弘(東京支部)、中野貞彦(東京支部)、橋本良仁(東京支部)

設置趣旨：時代錯誤の愚策ともいべきリニア中央新幹線計画の重大な欠陥は日本科学者会議「声明」(2014.7.15)の指摘通り、工事の強行とともに明らかとなり、地域住民の生活と人権を圧迫し、深

刻な不安と恐怖を引き起こしている。

現在、国交省有識者会議の大井川水資源問題をめぐる議論がリニア計画の趨勢を決する重大要因となっている。静岡県民は、本会議の科学的根拠に基づく議論と結論を期待している。川勝知事も、工事は会議の結論が出るまで待つべきとし、リニアか水かと問われれば住民の“命の水”をとるとの姿勢を堅持し、国交省の提案に対して条理を尽くして対応している。国交省・JR 東海は、有識者会議を住民運動から隔離し、メディアの偏向を画策し、強行突破しようとしている。

「リニア開業ありき」の議論はやめよう、ポストコロナにリニアは不要、工事が大井川の中下流に影響しない根拠を示せ、「県知事だけがごねている」「県民も早く死ねば社会のためになる」などヘイトスピーチは許せない、等々。このような質問・意見・要求の科学的解明と各地の教訓を共有し、科学的知見をもって有識者会議を包囲し、国民の期待に応えた議論と結論が出せるように激励しよう。

12月5日 9:30~12:00

座 長：長田好弘、中野貞彦、橋本良仁（東京支部）

09:30~09:35 開会あいさつ 長田好弘（リニア中央新幹線問題研究連絡委員会）

09:35~09:55(1)長田好弘（リニア中央新幹線問題研究連絡委員会）：国土交通省専門家会議に
科学性、誠実性、品性を求める—開会あいさつと分科会設置趣旨説明をかねて—

09:55~10:15(2)庄司善哉（岐阜支部）：リニア中央新幹線事業は中止を！

10:15~10:35(3)川本正彦（春日井リニアを問う会 事務局）：地域の現状

10:35~10:45 <休 憩>

10:45~11:05(4)河内正道（リニア新幹線を考える相模原連絡会事務局）：リニア残土・採石場への
巨大盛土の危険性

11:05~11:25(5)林 克（リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク共同代表）：静岡県におけるリ
ニア新幹線問題の論点と運動

11:25~11:45(6)樫田秀樹（フリージャーナリスト）：静岡県はごねていない

11:45~12:00 <全体討論1>

<午後の部>

12月5日 12:50~15:20

座 長：長田好弘、中野貞彦、橋本良仁（東京支部）

12:50~13:10(7)天野捷一（リニア新幹線沿線住民ネットワーク（共同代表））：実現へ減速するリ
ニア新幹線

13:10~13:30(8)畑 明郎（滋賀支部・元大阪市立大学大学院教授）：リニア中央新幹線建設と環
境破壊

13:30~13:50(9)西川栄一（兵庫支部）：時速500キロのリニア中央新幹線—そのスピードを享受
するのは誰か、そしてそのコストを払うのは誰なのか—

13:50~14:00 <休 憩>

14:00~14:20(10)関島保雄（弁護士（弁護団共同代表））：リニア新幹線訴訟の現状

14:20~14:40(11)桜井 徹（国士舘大学経営学部教授）：リニア中央新幹線と企業の社会的責任

14:40～15:10 <全体討論 2>

15:10～15:20 閉会あいさつ(長田好弘)

【F4】分科会名:科学技術の現状批判-日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part12-**設置責任者:** 長田好弘(東京支部)・久志本俊弘(大阪支部)・矢作英夫(東京支部)**設置趣旨:** 「骨太方針 2020」(閣議決定 7 月 17 日)は、「コロナウイルス感染症への対応が喫緊の課題」としながらも、医療体制(研究を含む)弱体化の政策がこの危機を深刻化させた反省はない。「デジタル化への集中投資」をおこない、この危機に乗じて財界の要求実現を一気にすすめる構えである。

コロナ禍は研究者に何を語り、問いかけているのか。政府の「専門家」とメディアは、忖度によりリスク評価を誤り、過剰な恐怖心を広げたのではないか。研究者・専門家は、とくに重要課題においては、「公開」を臆してはならない。

アジア諸国の教訓にも学び、研究者・専門家が市民と協力・連帯し、日本の医療力・情報技術をフル活用し、新型コロナウイルスの感染拡大阻止・共存(未知のウイルスを含む)のために、さまざまな角度・視点から科学技術の現状批判と交流を深めたい。キーワード: ○検査制限論、○感染格差、○「専門家」の在り方、○地域に根差した研究活動、○ケア労働、○ジェンダー、○デジタル社会の危険性、○人間と自然の間合い、○一極集中からの転換

12 月 4 日 12:50～15:20**座 長:** 長田 好弘(東京支部)・久志本 俊弘(大阪支部)、矢作 英夫(東京支部)

12:50～12:55 あいさつ(分科会設置趣旨)長田好弘

12:55～13:10(1)長田好弘(東京支部)「経済財政運営と改革の基本方針 2020 を読む」

13:10～13:25(2)兵藤友博(東京支部)「感染症が問うている『人間と自然との間合い』」

13:25～13:40(3)野村康秀(東京支部)「科学技術基本法改悪の問題点と今後の科学・技術政策」

13:40～13:50 <休 憩>(10 分間)

13:50～14:05(4)出口幹郎(大阪支部)「明石市の新型コロナウイルス検査体制改善に向けた技術者の取り組み」

14:04～14:20(5)矢作英夫(東京支部)「リモートワークの推進と問題点」

14:20～14:35(6)山本譲治(大阪支部)「新しい可能性を拓くオンラインシンポジウム」

14:35～14:50(7)久志本俊弘(大阪支部)「コロナ禍の PCR 等の検査について 大阪府と大阪市の感染状況から」

14:50～15:20 総合討論(30 分)

【F5】分科会名:科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part13—**設置責任者:** 長田好弘、松永光司(武蔵野通研分会)**設置趣旨:** いまどきロマンを語れるのか。研究開発の誇大宣伝とは裏腹に、コロナ禍は日本のグローバル化社会の脆弱性と危険性、貧困の深刻さと多様さ、弱者へのしわよせ、等々を可視化し、そ

の根源つまり歴代政権の失策をも明らかにした。厚生労働省が2010年にまとめた感染症対策に関する報告書も事実上放棄されてきた。「専門家」は往々にして、政府に都合の良いアリバイづくりに入り、メディアもそれを手伝ってきた。国民が研究者に求めるものは何か。研究課題の具体的進捗とその社会的関係との納得できる説明ではないのか。本分科会はこの目的のために発足した。意見の相違を受け入れ、専門・非専門を問わず、自由闊達に語り合うために設置してきた。新型コロナウイルスへの対応をめぐる研究者の見解は多様である。本分科会設置の趣旨を活かして、科学・技術の釣り合いのとれた総合的な発展を期して、共同と連帯の精神で、大いに語り、交流を深めたい。

キーワード：○宇宙誕生の解明、○金星のなぞに挑む、○「AIホスピタル」、○ムーンショット型研究開発、○科学技術の国際協力、○危機感を共有、○柔軟な対応、○科学技術基本法改正、○「骨太方針2020」

12月3日 15:30～19:10

座 長：長田好弘、松永光司（東京支部）

15:30～15:35 分科会設置趣旨 長田好弘（分科会設置責任者）

15:35～16:00 (1) 長田好弘（東京支部）：科学技術基本法改正に思うー「人文科学のみに係る科学技術」と「イノベーションの創出」を法の対象としたことについてー

16:00～16:25 (2) 今清水雄二（元秋田大学准教授）：戦後日本の科学・技術体制の変遷と自民党九条改憲策

16:25～16:50 (3) 小金澤鋼一（東京支部）：致死自律型兵器(LAWs)の開発の現状と禁止条約制定の運動

16:50～17:15 (4) 池上幸江（東京支部）：日本人の健康・栄養状態と食料確保の現状を考える

17:15～17:25 <休 憩>

17:25～17:50 (5) 増澤誠一（東京支部・特許庁分会）：変わる知的財産事情2020

17:50～18:15 (6) 吉田満（東京支部個人会員）：コロナ禍を克服し未来社会へpDEMITで立ち向かう

18:15～18:40 (7) 松永光司（東京支部）：政府が目指す「ポストコロナ時代のデジタル化、デジタル・トランスフォーメーション」を検証する

18:40～19:10 総合討論、閉会挨拶

G 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

【G1】分科会名：高等教育の危機に抗するためにーコロナ危機の下、大学等で何が起きているのか、私たちは何をなすべきか？

設置責任者：井原 聡（東京支部）

設置趣旨：コロナ危機の下で、学生や教員に何が起きているのか、大学の設置形態や構成員の枠を超えて考えたい。また、この6月に成立した「科学技術・イノベーション基本法」では大学の責務がイノベーション創出にあるとされ、教育・研究の多様性とともな自律性が失われかねない。官邸・内閣

府の「司令塔」の指示がどこまで入り込んでいるのかも含め、総合的に検討し危機を乗り越える手立てを考えよう。

12月5日 15:40～18:10

座長: 多羅尾 光徳(JSA 全国学術体制部長)

15:40～15:45 座長あいさつ

15:45～16:20(1) 中富 公一(元岡山大学): 学校教育法改正は大学のガバナンスに何をもたらしたか

16:20～16:50(2) 長山 泰秀(全国大学高専教職員組合): 国立大学・法人制度の岐路とそこで
の選択

16:50～17:00 <休憩>

17:00～17:30(3) 佐久間 英俊(JSA 東京支部): コロナ危機下の私学教育の惨状

17:30～18:10 全体討論

【G2】分科会名: 民主的市民性教育のために ドイツの政治教育に学び日本への応用を図る

設置責任者: 神田靖子(大阪学院大学 名誉教授)、名嶋義直(琉球大学 教授)

設置趣旨: 昨今の政権による民主主義崩壊の責任はこうした政権を選んだ国民にある。では、国民一人ひとりには確かな意志をもって選挙に臨んだのであろうか。残念ながら日本では国民(市民)の社会参加への訓練は徹底されていない。その点で、ドイツはナチズムの蛮行を許した反省から戦後、思考力をつけ社会参加を促す「政治教育(民主的市民性教育)」が国を挙げて行われてきた。本分科会ではその歴史や実態を紹介し、それをいかに日本社会に応用し実践できるかを検討する。

12月5日 12:50～15:20

座長: 神田靖子(大阪学院大学名誉教授)、名嶋義直(琉球大学)

12:50～12:55 分科会の趣旨説明(神田、名嶋)

12:55～13:20(1) 神田靖子(大阪学院大学名誉教授): ドイツの政治教育の理念と具体的組織および実施体制

13:20～13:45(2) 寺田佳孝(東京経済大学): ドイツの学校における政治教育の教育内容および学校外での政治教育活動

13:45～13:55 前半の質疑応答

13:55～14:05 <休憩>

14:05～14:30(3) 名嶋義直(琉球大学): 日本の教育現場へのローカライズ

14:30～15:05(4) 青木由香(アレッセ高岡): 地方の外国人散在地区における「市民性教育」の試みー「外国人支援」を越えてー

15:05～15:20 後半の質疑応答・まとめ

【G3】分科会名：企業としての大学・研究機関——法人化を転じて福と成そう——**設置責任者**：佐々木 弾（東京大学社会科学研究所）

設置趣旨：毀誉褒貶あった国公立大学・研究機関の法人化だが、単なる「民間活力」に留まらぬ思わぬ副産物が浮上した。それは一口に言えば、お役所でなくなったことに伴う自由権である。教職員は被雇用者として労働法上の権利保障の対象に入り、限定的にせよ副業・兼業が柔軟化される等、働き方が「公務」の特殊性・異常性から解放された。経営面では、良きにつけ悪しきにつけ企業価値の向上が求められることとなった。本会では斯かる転機を発展的に善用する方向性を論じたい。

12月6日 09:30～12:00

09:30～09:35 座長あいさつ

09:35～10:00 (1) 石川洋行（八洲学園大学非常勤講師）：「大学の企業化」でコンプライアンスはどう置き去りにされているか（仮題）

10:00～10:25 (2) 大野英士（早稲田大学文学学術院）：大学非常勤講師の全面的待遇改善に向けて—歴史と今後の展望

10:25～10:35 <休憩>

10:35～11:00 (3) 松村 比奈子（拓殖大学政経学部非常勤講師）：リモートワークとしての大学授業の意義と課題

11:00～11:25 (4) 佐々木 弾（東京大学）：大学・研究機関の企業化の功罪—災いは転じて福と成れるか？

11:25～11:50 全体的質疑応答

11:50～12:00 座長まとめ

【G4】分科会名：いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える**設置責任者**：丹生淳郷（埼玉支部）、重松公司（岩手支部）

設置趣旨：22 総学では、約 40 年ぶりに全面改定された「科学及び科学研究者に関する勧告」（2017）を JSA「研究者の権利・地位と倫理」報告（2007）と対比して紹介し、研究者の権利・地位、倫理を問かけるとともに、今日的課題である研究倫理、研究不正などの問題を探った。23 総学では、さらにこれらの課題を深めるとともに、軍学共同と学問の自由・研究者の倫理、学生の学ぶ権利、多様な研究者の権利・倫理などについても掘り下げたい。

**12月5日 15:40～18:10**

15:40～15:45 座長あいさつ（丹生淳郷）

15:45～16:05 (1) 丹生淳郷（埼玉支部）：ユネスコ「科学及び科学研究者に関する勧告」とその意義

16:05～16:25 (2) 野村康秀（東京支部特許庁分会）：秘密特許制度導入の動きと科学者・技術者のあり方

16:25～16:45 (3) 菊地重秋（東京支部）：新聞報道から見た研究不正の実態

16:45～16:55 <休 憩>

座 長 交 代 :重松公司

16:55～17:15(4)原田英美子(滋賀県立大)、池上徹(東大医科研):ポストコロナ時代の研究倫理
教育－効果的な遠隔講義の立案に向けて－

17:15～17:35(5)重松公司 (岩手支部):教員養成学部における研究不正とその背景

17:35～17:55(6)大村泉、高橋礼二郎(宮城支部)総長裁量経費と研究不正隠蔽の構造

17:55～18:10 全体討論・座長まとめ(丹生、重松)

【G5】分科会名:市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望

設置責任者:長野八久(『日本の科学者』編集委員会)

設置趣旨:市民と科学者を結ぶユニークな雑誌『日本の科学者』を進化、普及させ、社会発展に貢献する雑誌に育てるため、以下のような諸点から問題提起を行い、意見を交換する。1. 科学の産業化、科学者の労働者化、科学者の権利、2. 現代における科学者と市民の共同、科学と市民社会との関係、科学リテラシー、3. 現代における『日本の科学者』の役割、4. インターネットとの連結 オープンアクセス 双方向性、5. 研究者の国際連帯交流、平和への貢献、6. 現代社会における科学の課題を発掘、7. 魅力ある創造活動としての JJS 編集、8. 『日本の科学者』の普及

12月5日 15:40～18:10

座 長:長野八久(『日本の科学者』第56期編集委員長)

15:40～15:50 分科会進行の説明。オンラインの特性を生かした双方向性の高い分科会にする。

第1部:現代市民社会における科学雑誌『日本の科学者』の役割

15:50～16:05 長野八久(『日本の科学者』第56期編集委員長):現代市民社会における科学の役割と『日本の科学者』の到達点

16:05～16:30 第1部主題による討論

16:30～16:40 <休 憩>

第2部:『日本の科学者』2020年10月号、11月号の講評と特集主題による討論

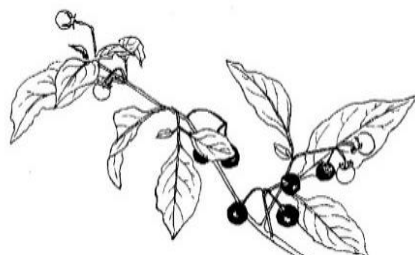
16:40～17:50 10月号、11月号掲載論文執筆者も交え、参加者で講評と特集主題による討論を行う。参加者は『日本の科学者』10月号、11月号を手元に用意してください。

なお、『日本の科学者』10月号、11月号の目次は

<http://www.jsa.gr.jp/04pub/0401jjs/2020contents.html#m2020-10> を参照。

第3部:『日本の科学者』の新しい展開

17:50～18:10 市民と科学者を結ぶメディア『日本の科学者』に期待される展開について討論する。



H 文化、芸術、スポーツ、思想、その他

【H1】分科会名：文学は、疫病・大感染をどう描いてきたか—内外の文学作品鑑賞の交流会**設置責任者：**風見梢太郎（東京支部 武蔵野通研分会）

設置趣旨：海外の文学には、疫病の大流行を描いた作品がたくさんあります。また日本の文学の中にも、今回の新型コロナウイルスの蔓延を予見したかのような作品があります。死の恐怖と闘い、終わりの見えぬ疫病の闇の中に、わずかな光を見い出して懸命に生きてきた人類の足跡を、文学作品の中にさぐってみたい。話題提供の報告のあと、参加者が自由に発言できる交流会形式にしたい。

12月2日 15:30~18:00**座長：**風見 梢太郎

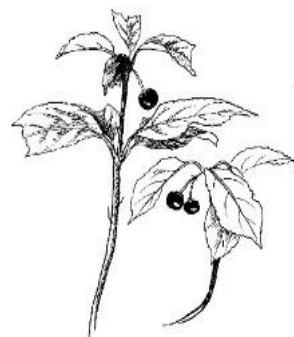
15:30~15:35 座長あいさつ

15:35~16:05(1)風見梢太郎(東京支部 通研分会)：文学は疫病との闘いをどのように描いてきたか

16:05~16:35(2)鬼頭孝佳・西田喜一(名古屋大学大学院生)：方法としてのパンデミック文学—人々はなぜ《接触》を恐れるのか

16:35~16:45 <休憩>

16:45~17:45 自由討論・交流会

**【H2】分科会名：優生思想の過去・現在・未来****設置責任者：**宗川吉汪（京都支部）、黒須三恵（東京支部）

設置趣旨：7月上旬、政治家が高齢者に対する「命の選別」発言を行い社会問題となった。出産に関しては新型出生前診断検査によりダウン症などの染色体異常がみつかり多くの場合に胎児は中絶されているなどの現状がある。このように「優生思想」が、過去の国家によるものから個人の内的なレベルへとかたちを変えて生き続けている。

そこで、本分科会では「優生思想」について、その思想誕生の歴史的経緯・背景、過去と現在の事例、これらを批判的に検討した上で今後の課題、未来について考えることにする。

12月4日 12:50~15:20**座長：**宗川吉汪(京都支部)

12:50~12:55 座長あいさつ

12:55~13:20(1)村口至(坂総合病院・検査部長)：優生保護法強制手術—宮城県で突出した状況と背景の考察

13:20~13:45(2)黒須三恵(生命と医の倫理研究委員会)：母体血胎児染色体検査等の利用と優生思想

13:45~13:55 <休憩>

13:55~14:20(3)宗川吉汪(京都支部)：「優生学」は医学・生物学の仮面を被ったエセ科学である

14:20～14:45(4) 尾崎恭一(放送大学 SC): 優生思想の提起する基本問題

14:45～15:15 総合討論

15:15～15:20 座長まとめ

23 総学予稿集の入手方法

電子媒体 (PDF) で発行、各自ダウンロード

- 実行委員会では **23 総学予稿集 PDF 版** を作成し、参加申込いただいた方にはダウンロード方法をご案内します (11 月 30 日を予定)。
- 参加者は各自で予稿集 PDF 版をダウンロードして入手ください。予稿集 PDF 版ダウンロードは無料です。
- また予稿集印刷版 (予稿冊子) は有料頒布とし、参加登録時に希望者の注文を受け、23 総学終了後に総学の記録を追加編集して印刷し、2021 年 1 月末ころ送付の予定です。予稿集印刷版の頒価は実費相当で 2000 円程度の見込みです。

参加費は無料です 募金にご協力下さい

オンライン開催とする今回の総学では、これまでかかっていた様々な費用を削減できるため、参加費は無料とします。オンライン化で費用は削減されますが、通信費、印刷・宣伝費等一定の費用が必要です。これらは JSA 全国の総学予算とみなさまからの募金で賄う予定です。

同封の振り込み用紙で募金にご協力ください。



実行委員会は分科会のオンライン開催を 全面的にサポートします

実行委員会は、要請に応じて分科会のオンライン開催を全面的にサポートします。

- (1) Zoom の使用契約、オンライン会議の立ち上げは実行委員会が行います。分科会開設時間帯に、実行委員会の担当者が待機し、トラブル等に対処します。

Zoom の体験会を開設：分科会設置責任者を主な対象として、今回使用するオンラインソフト Zoom の体験会を設けます。分科会設置責任者には運営の手順説明と予行演習の機会の案内を別途送ります。

分科会ごとに分科会設置責任者が主体となって分科会の予行演習を行うことを推奨します。予行演習の時期は 11 月 16 日～30 日を目処とし、実行委員会から予行演習日を分科会設置責任者を通じてご案内します。

- (2) 参加費無料を活用し、関心のある

様々な人々（非会員も）を気軽に誘って下さい。また、例えば各支部の会議室や会員の研究室・自宅などでネット環境のある場所に複数名が集まれる場合は、複数名で 1 つの PC を共用して参加する方法も考えられます。オンライン会議に不慣れな人も参加しやすく、お薦めです。



今後のスケジュール

- 11 月 10 日 4th サーキュラー(プログラム発表、参加呼びかけ)
- 11 月 10 日～15 日 分科会設置責任者対象の **Zoom 体験会**(希望者)
- 11 月 15 日 分科会**発表者の予稿原稿提出期限**(分科会設置責任者へ提出)
(予稿原稿は A4 版 2 ページ、Word 版と PDF 版の両方を提出。
予稿テンプレートが JSA ウェブの 23 総学ページにあります)
- 11 月 16 日～30 日 **分科会単位で予行演習**、全体会予行演習
- 11 月 17 日 **分科会設置責任者は実行委員会へ予稿原稿をまとめて提出**
(Word、PDF とも提出して下さい)
- 11 月 30 日 **予稿集 PDF 版のダウンロード方法を参加申込者に連絡。**
これより参加者が各自でダウンロード。
- 12 月 4 日～6 日 **23 総学(オンライン開催)**
- 2021 年 1 月中旬 予稿集冊子印刷版下完成(23 総学記録挿入)、入稿
1 月下旬 予稿集冊子印刷納品、発送

第 23 回総合学術研究集会実行委員会

(11 月 10 日現在、五十音順)

実行委員：青木和光(東京支部事務局次長)、亀山統一(沖縄支部)、○河野 仁(研究企画部長)、小滝豊美(茨城支部)、後藤仁敏(神奈川支部)、☆佐久間英俊(東京支部事務局長)、重松公司(前研究企画部長)、丹生淳郷(埼玉支部)、◎松永光司(東京支部代表幹事)、三木敦朗(長野支部)、矢田俊文(新潟支部)、○米田貢(東京支部代表幹事)

現地実行委員：小尾晴美(東京支部幹事)、衣川清子(東京支部常任幹事)、中川功(東京支部)、中島明子(東京支部常任幹事)、中西大輔(東京支部幹事)、中野貞彦(東京支部常任幹事)、森原康仁(東京支部事務局次長)、山村延郎(東京支部幹事)、吉村さくら(東京支部常任幹事)
◎：実行委員長、○：副実行委員長、☆：事務局長

日本科学者会議 第 23 回総合学術研究集会実行委員会
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 HY ビル(茶州ビル) 9 階
Tel : 03-3812-1472 Fax : 03-3813-2363 e-mail : 23sogaku@jsa.gr.jp